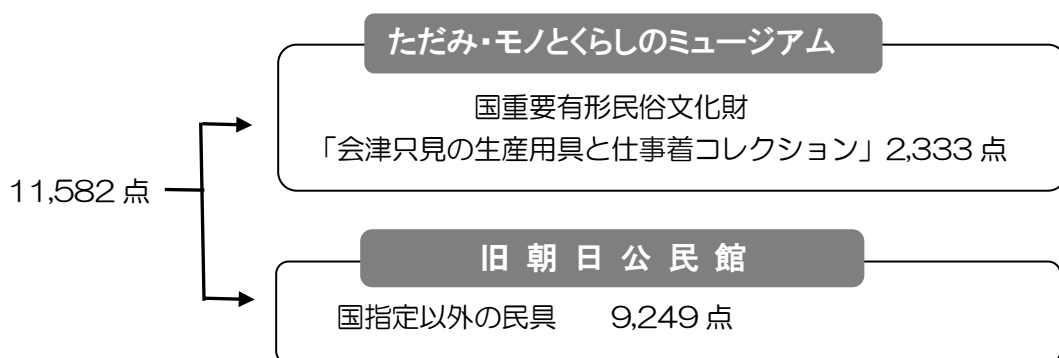


“民具愛”でまちづくり — 福島県只見町の活動報告

ただみ・モノとくらしのミュージアム運営協議会長 新国 勇

- 只見町の民具（すべての調査カードは町民が記録済み）



- 「只見方式の民具整理」とは …… 町民自らが、民具を収集・整理し、記録する方式
- 「只見町民具保存活用運動」とは …… 民具を収集・整理・保存し、次世代に継承する運動
- 只見町の民具整理が成功モデルとなった理由
 - ① 町民・行政・研究者が一体化 ② 徹底したマニュアル ③ 町の財政的な支援
- これからの只見の民具
 - 民具整理の継続 → 学術的価値を高める
 - 住民や学校にアピール → 文化財的価値を知る
 - 民具に自信と誇りをもつ → 民具の活用
- 只見町民が民具を大切にする理由
 - ① 伝統的な暮らしを残している
 - ② 多世代同居で、知識が受け継がれている → 民具への「愛着」が深い
 - ③ 学術研究により民具が高く評価されている
- 只見町のまちづくり
 - 学術調査によるまちづくり → 別紙 1、別紙 2 参照
- ◎ 住民をまちづくりに巻き込むには？
 - ① 発信する（マスコミ・ネット・広報紙など）
 - ② 啓発する（講演会・見学会・シンポジウムなど）
 - ※ 首長、役所職員、議員、住民、生徒ごとにおこなう
 - ③ 誇りを持たせる（研究者・マスコミ・ネットによる評価）

“アクション”と
“アップデート”
が大切

只見町の学術調査 と 民具整理のあゆみ

第1次町史編さん

- 1962年（昭和37年） 「只見町郷土史研究会」「只見町沿革史起草審議会」が発足する
 1964年（ 〃 39年） 『只見町郷土資料集』全9集を刊行する〔～1968年（昭和43年）〕
 1965年（ 〃 40年） 民具収集が公民館活動によってはじまる
 1966年（ 〃 41年） 只見町社会教育委員会の目標に「民俗資料の発見と保存」が掲げられ本格的な収集がおこなわれる
 1968年（ 〃 43年） 『第1次只見町振興計画』に「歴史資料館の建設」が明記される
 1969年（ 〃 44年） 明治百年記念事業において収集した民具を旧只見公民館で展示する
 1970年（ 〃 45年） 集中豪雨により移転した4集落の民具を収集し保管する
 1971年（ 〃 46年） 『図説会津只見の歴史』を刊行し、収集民具を掲載する
 移転集落の民俗調査を行い『南会津只見町過疎部落の民俗』を刊行

- 1982年（ 〃 57年） 窪田遺跡の発掘調査がおこなわれる〔～1985年（昭和60年）〕
 1983年（ 〃 58年） ダム建設によって水没する石伏集落の民具を旧入叶津分校に保管する
 「明和の民俗を語る会」が『むらの思い出』を刊行するかたわら民具の収集・整理をおこなう〔～1986年（昭和61年）〕
 1984年（ 〃 59年） 『湖底に沈む奥会津石伏の歴史と民俗』を刊行する
 1987年（ 〃 62年） 『窪田遺跡—縄文時代・弥生時代の集落跡、再葬墓』を刊行する

第2次町史編さん

- 1989年（平成元年） 只見町史編さん事業がはじまる〔～2003年（平成15年）〕
 ※ 町史本巻6冊、町史資料集5冊、文化財報告書7冊を刊行する
 1990年（ 〃 2年） 民具整理が本格的にはじまる
 1991年（ 〃 3年） 4,417点の整理と分類が完了 ※「只見方式の民具整理」が注目される
 1992年（ 〃 4年） 『図説会津只見の民具』を刊行する
 1996年（ 〃 8年） 「只見町昔ばなしの会」が発足する
 1998年（ 〃 10年） 「只見町民具と語る会」が発足する ※「民具整理保存活用運動」が注目される
 2002年（ 〃 14年） ブナ林総合学術調査事業がはじまる〔～2004年（平成16年）〕
 2003年（ 〃 15年） 『会津只見の生産用具と仕事着コレクション』2,333点が国重要有形民俗文化財に指定される
 神奈川大学 21 世紀 COE プログラムで、只見町の民具、民俗、文書、景観などの総合学術調査がおこなわれる〔～2008年（平成20年）〕
 2005年（ 〃 17年） 第1回世界ブナ・サミットを開催する
 「只見町民具と語る会」が町から功労表彰を受賞する

さまざまな学術調査

- 2006年（ 〃 18年） 「只見町ブナセンター」が発足し、「自然首都・只見」を宣言する
 『第6次只見町振興計画』に「ブナと生きるまち」が理念として掲げられ、「民具収蔵展示施設の建設」が明記される
 2007年（ 〃 19年） 「只見町公認自然ガイドインストラクター」の養成がはじまる
 2008年（ 〃 20年） 「第2回世界ブナ・サミット」「子どもブナサミット」を開催する
 2009年（ 〃 21年） 「ただみ・ブナと川のミュージアム」が開館する
 2012年（ 〃 24年） 自然首都只見学術調査助成金事業がはじまる
 2013年（ 〃 25年） 「只見学推進事業」がはじまり、只見学検定が実施される
 2014年（ 〃 26年） 「只見ユネスコエコパーク」に登録される
 2022年（令和4年） 「ただみ・モノとくらしのミュージアム」が開館する

学術調査でまちづくり 福島県只見町

別紙2

※ 白抜き文字 は、住民への働きかけを示す

第1次町史編さん

第2次町史編さん

さまざまな学術調査

1962

- ・只見町沿革史起草審議会が発足
- ・只見町郷土史研究会が発足

1964~1968

- ・『図説会津只見の歴史』を刊行
- ・『只見町郷土資料集』を9冊刊行
- 公民館報に歴史・民俗を連載
- 郷土史講座を開催
- ・民具収集が始まる

1982~1987

- ・『奥会津石伏の歴史と民俗』を刊行
- ・石伏総合学術調査事業が始まる
- ・『窪田遺跡発掘報告書』を3冊刊行
- ・窪田遺跡の発掘調査が始まる

1989 ~

- 文化財報告書 7冊
 - 町史資料集 5冊
 - 町史本巻 6巻
- を刊行
- 町史編さん講座の開催
- 町史とつづきの話の連載

2005

- ・『ブナ林学術調査報告書』を3冊刊
- ・ブナ林総合学術調査事業を行う
- ・神奈川大学による民具発信事業が始まる

2006 ~

- ・自然・文化財の学術報告書を毎年刊行
- 『只見おもしろ学ガイドブック』を刊行
- 広報紙への連載
- 自然観察会の開催
- シンポジウム講演会の開催
- 自然ガイドコースマップの作成
- ・自然首都只見学術調査助成金事業を毎年実施
- ・「只見町ブナセンター」を設置

2025

- ・只見おもしろ学検定の実施

『第1次只見町振興計画』を策定(1968)

「歴史資料館の建設」を明記

『第6次只見町振興計画』を策定(2006)

「ブナと生きるまち」を理念に掲げ「民具収蔵展示施設の建設」を明記

只見の民具が国重要文化財に指定(2003)

「自然首都・只見」宣言(2006)

只見学推進事業開始(2013~)

「只見ユネスコエコパーク」登録(2014)

ただみ・ブナと川のミュージアムが開館(2009年)

ただみ・モノとくらしのミュージアムが開館(2022年)

